

## 令和元年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 令和元年9月12日（木）13時30分～15時30分

場 所： 草津市役所2階特大会議室

出席委員： 三浦委員長、藤田副委員長、浦部委員、河合委員、齋藤委員、  
木城委員、喜田委員、黒川委員、小泉委員、関川委員、  
中井委員、村田委員、吉川委員

欠席委員： 小沢委員、塚口委員、新崎委員、河副委員、北村委員、荒木委員、中瀬委員

事務局： 市長、健康福祉部川崎部長、健康福祉部溝口理事、健康福祉部増田副部長、  
健康福祉部井上副部長、環境経済部藤田部長、都市計画部辻川部長  
健康増進課山田課長、長寿いきがい課松永課長、地域保健課松本課長、  
地域保健課松尾副参事、地域保健課磯部保健師、  
健康福祉政策課田村係長、健康福祉政策課野々村副係長、  
健康福祉政策課井上主任

傍聴者： なし

次 第：

1 開会

2 委員長・副委員長の選任について

3 議事

1) 草津市健幸都市基本計画の平成30年度・令和元年度の取組について

2) 健幸都市づくりの推進に向けた意見交換  
話題提供『地域健康データ』について（地域保健課）

4 閉会

## 1. 開会

---

### 【市長】

こんにちは。令和元年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会の開催にあたりまして、ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様におかれましては大変お忙しい中ご出席を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、これまでも申し上げておりますが、滋賀県の平均寿命健康寿命というのは全国トップクラスで、男性の平均寿命が全国1位、健康寿命は2位、女性の平均寿命は4位、健康寿命は3位です。そして滋賀県内19市町の中で草津市が1位です。平均寿命は男性が82.6歳で、全国1888の市区町村の中で5番目ですし、女性が87.9歳で全国で98番目です。滋賀県による分析結果の発表では、滋賀県民はスポーツやボランティア活動をする人の割合が多く、喫煙者や深酒をする人の割合が少ないこと、こういったところが結果に表れているということです。そしてさらに分析を進められ、今年の5月に発表がありましたが、長寿と相関関係があるものとして、シルバー人材センターの登録率や図書館の本の貸し出し冊数が挙げられており、これらの数値が滋賀県も草津市も高いということで、長寿になっているという分析結果です。さらに、もう一つの指標では東洋経済新報社から「住みよさランキング」が毎年発表されており、住みよさの偏差値が高いほど平均寿命や健康寿命が高いという分析がされています。滋賀県の各都市は全国的にみても住みよさランキングが高く、中でも草津市は県下で一番ランキングが高く、全国でも上位で、このあたりも平均寿命・健康寿命の長さにつながっていると考えています。そういった良い面もありますが、健幸都市ということで体の健康だけではなく、心の健康、さらには、「健幸」の「幸」というのは幸せという字を書くように、幸せが分かち合えるまちの実現に向けてまだまだ課題はありますので、課題を解決しながらより一層邁進していく所存です。

本日はこの後事務局より健幸都市づくりに関する平成30年度の実績と令和元年度の計画について説明をさせていただきますので、健幸都市基本計画に沿った取組となっているかを確認いただくとともに、それぞれの立場から忌憚のないご意見やアドバイスをいただきたく存じます。結びにあたりまして、今後も引き続き、健幸都市づくりのため、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げ、なにより本日お集まりの皆様方のご健「幸」を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【事務局】

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員長・副委員長の選出>

## 2 委員長・副委員長の選任について

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員長・副委員長を選任>

**【委員長】**

草津市の健幸都市づくりには計画策定の時から関わっており、引き続き、委員長として選出いただいたので、僭越ながら務める。滋賀県は全国的にも寿命が長く、草津市も特に健康度が高いということだが、草津市の取組が全国のモデルになるようにご意見をいただき、いいものにできればと考えている。

**【副委員長】**

私も初期の計画策定のところから関わらせていただいた。立命館大学と草津市は、地域連携というかたちで、運動や食のところでこれまでも関わってはきたが、こういった場で草津市が一丸となって方向性を築いていくとともに、草津市がモデルとなるように、私自身も尽力させていただくので皆様のご協力をお願いしたい。

<市長、退席>

**3 議事**

1) 草津市健幸都市基本計画の平成30年度・令和元年度の取組について

**【事務局】**

<資料に基づき、説明>

**【委員長】**

計画策定のと看から「健幸」をキーワードにまちづくりを考え、ハード面ソフト面の両方について議論を重ねてきた。本計画は他分野に渡る内容となっている。例えば公園の整備も含んでおり、環境を整備し、加えてソフト面の様々な取組を進めることで健幸都市の実現を目指すというものである。また、本委員会は計画の進捗状況をするという役割もあるので、まずは計画の進み具合についてご質問やご意見があればお願いしたい。

**【委員】**

コンパクトシティプラスネットワークについてお伺いしたい。毎朝自宅から駅まで散歩するが、整備されているところとないところの差が顕著であると感じる。駅前や観光地などの目に付くところだけが整備されている。散歩していても歩きづらい。差をつけるのではなく、全体がよくなるような施策をしていただきたい。偏在するという事は、ある特定の地域だけを優遇することになるので、そのあたりのことをお伺いしたい。

### 【事務局】

草津市では今後の人口減少等に対応するために、コンパクトシティプラスネットワークの考え方を取り入れ、昨年度に立地適正化計画、草津市地域公共交通網形成計画、草津市版地域再生計画という三計画を策定し、中心部に都市機能誘導区域というものを設け、中心部で誰もが不自由なく生活できるという機能をまず持たせたうえで、中心部には居住人口誘導区域を設け、中心部で皆さんが歩いて暮らせるまちを目指すという計画を立てている。地域公共交通網形成計画では、中心部と地域を公共交通で結び、暮らしやすいまちを目指している。また草津市版地域再生計画は、周辺地域も一定の暮らしやすさと地域コミュニティの維持を目的に策定をした。これらの計画によりネットワークにもとづくコンパクトなまちを目指している。20年計画で立てている。

### 【委員】

資料18ページに市民総合交流センターの整備とあるが、私は大きな建物より、費用がかからず人の集まる施設が最も効率的だと考えている。最近沖縄も変わってきているが、沖縄の方の長寿の要因として、高齢者が広場で朝から晩まで話をし、人との交流の場を持っていることだと言われている。何千万もする大きな施設を作るよりも、むしろブロックごとに、そういう誰もが語らえる場を費用をかけずに作るということが草津中に広まれば、老人の孤独がなくなり、認知症予防にもつながり、人々が希望をもって過ごせる場所になるのではないかと考えた。

### 【事務局】

高齢者の居場所づくりとして、市もサロンの設置に向けて助成を行っている。これからも支援をする必要があると思っている。資料に記載の交流センターについて、駅前東口のいわゆる西友跡地に建設を予定しており、人権センターや今商工会議所が入っている合同ビルの老朽化に伴い、これらの施設を1か所に集め、そこに子育ての機能や今までにないようなコミュニティの機能を付加した施設の建設を予定している。

### 【委員長】

交流センターはまちの健幸づくりの重点的な取組の中に入っている。今設計中と説明があったが、市民の健幸に役立つような設計がされているか。計画策定当初から入っていたので、委員会としても納得の上で進めてきたのだと思うが、中身の方はどうか。設計の進み具合やどのように役立てるかということについてはどうか。

### 【事務局】

設計は既に完了しており、現在基礎調査に入っている。着工はもう少し先だが、この施設についてはもともと健幸都市の計画に入っており、中心市街地を歩いて回ることが健康

につながるということで計画に載せたものである。本センターを起点にして中心市街地を市民の皆様や本市を訪れる皆様に駅前を歩いていただける環境を作っていきたいと考えている。

**【委員長】**

資料1には子育て支援や多世代交流などの新たな機能についても書かれているが、ソフト面で十分に活用されるような対策も必要かと思う。

**【委員】**

人の健幸づくりということで、まちづくり協議会と関わりを持ちたいと書かれている。市内の14のまちづくり協議会との関わり方についてご説明願いたい。

**【事務局】**

昨年度、地域ごとに国民健康保険加入者のデータを分析し、学区ごとに地域健康データというものを作成した。昨年度末、各まちづくり協議会に説明し、これからまちづくり協議会や健康推進員の皆様と学区ごとの課題の共有をはかり、各学区の健康特性に応じた取組を進めていきたいと考えている。

**【委員】**

例えば私の学区は、「健康リーダー研修」といって、室内でできる軽い体操や講演などを年9回、子ども対象には食事作りや、ウォーキングなどを年4回している。

**【委員】**

健康推進員をしている。各学区には健康推進員がおり、市の担当者から、特定健診の受診率、糖尿病患者数等の学区ごとのデータをいただいている。それをもとに、従来は草津市全体のデータをもとに講習や活動をしていたが、今回、地域ごとの細かいデータが出たので、各地域にあわせた活動をしていきたいと考えている。それにより草津市の平均寿命・健康寿命の延伸につながると考えている。

**【委員】**

自転車道のネットワーク化に関してである。私は駒井沢に住んでいるのだが、ハートセンターの前から浜街道にかけての大きい歩道に自転車が走っているのを見かける。夜暗い中で歩くのが怖いので、広い歩道にするのではなく、半分を自転車道にしてほしい。

また、資料1に健幸づくり推進拠点の整備と記載があるが、ロクハ荘やなごみの郷をもう少し活用できないか。高齢者は行くのを楽しみにしている。しかし、行きたいけどバスがないという声を聞くので改善してほしい。

サロンについて、80代では月2回のサロンでは少なく、できれば週1～2回あるような居場所を作ってほしいという意見が多い。草津駅前には若い人の楽しむところがいっぱいあるが、常盤や山田等の高齢者は車に乗れないのでほとんど行けない。中心地の回遊性を高め、歩いて暮らせるまちを目指すのであれば、そこまでみんなが来られるようなものを作ってほしいと思った。

#### 【事務局】

自転車道の整備について、自転車で暮らせるまちという点では大変大切だと思う。今話のあった栗東志那中線は県道であるが、歩道が拡幅されて6～7mほどある。そのような歩道には、交通規制上自転車と歩行者が通行可能という青い標識があるので、歩道を自転車が通ることも正常。確かに歩行者からみると一瞬混在すると危ない。歩行者と自転車を分離するのが理想で、国の計画にも出ており、市も分ける取組を進めている。実際南草津駅前の野路から橋岡に向かっての歩道には、真ん中に線を引き、自転車と歩行者を分けている。大きい歩道であればそういった対応も可能なので、栗東志那中線についても県と調整しながら歩行者と自転車が分離できるかについて調整していく必要があると考えている。市内全域を自転車ネットワークで結ぶということについては、計画があるが、費用がかかる部分であるので、優先順位をつけて進めていきたい。

#### 【事務局】

ロクハ荘なごみの郷については、かねてより高齢者中心の施設となっている。昨年度は温浴施設の存続を中心に、施設の活用について委員会において協議をいただいた。温浴施設はよく利用いただいているが、その他にも介護予防や健康をとらえて使っていただけるように関係各所でソフト面での協議をしながら様々な展開を行っているところ。

また、交通手段については市内にバスを走らせているがなかなか行きたい時間にバスがこないということで利用者は正直少ないのが現状。そこで、何人か揃ったらお迎えに行くという方法をなごみの郷で展開している。みんなで仲良く共に過ごしていただきたいという思いをもち、工夫をしている。ただ、本施設だけではバスの展開は難しいので既存のものも活用しながら工夫していけたらと思う。

次にサロンについて、地域サロンは小さなコミュニティである町内会を中心に補助金で援助をしながら、市社協を中心にお手伝いさせていただいているが、小さなコミュニティは担い手も少なく負担が大きい。先ほどの各ブロックで寄れるところがあるといいという意見については、真摯に受け止めて、今後の施策の展開の参考にしたい。

#### 【委員】

自転車道について、私の住んでいる南笠東学区は、駅からも遠く若い世代の方が少なく、開発から見放されているのではないかと感じる。自転車で駅まで行ったほうが健康の為に

も良いし、ベビーカーを押して駅まで行きたいが、国道の歩道は一段高くなっており、自転車や歩行者とすれ違う際、狭いのみ出でて自転車を走らすことになるので非常に危険を感じるため、駅まで自転車や歩いて行くことができない。公共交通機関も通っていないので車で行くしかないという現状。駅周辺優先なのでこちらの方までは開発は来ないのか。

#### 【事務局】

現在南草津周辺は人口増加に伴い、雨の時は特に混雑が激しく、それに対応するために対策検討会を設けている。市民の方、警察、立命館大学、地元の方にも入っていただいどどのようにすれば南草津駅周辺が交通的に住みやすくなるか議論を進めている。その中で自転車の通勤通学についても検討しているところ。

公共交通機関の利用をしていただくことを目的に自家用車の使用制限の実証実験をしたいという提案があり、来年度にJR南草津駅内のロータリーの機能をよくする為の社会実験をしたいと考えている。そういった検討の中で、ソフト面でも使いやすくなおかつハード面でも道を広げる事も考えながら現在進めている。

#### 【委員長】

コンパクトシティなので車を使わなくても移動ができるよという考え方で、まちの整備を進める必要がある。

#### 【委員】

サロンの問題が出ているが、実は私の町内の会館は、草の根ハウスブームが約40年前にあったが、その頃に建てられた会館で非常に老朽化し、バリアフリーもされていない。月に2回サークル等をされているが、もし会館の建替えをするならば、市からの補助はあるのか。

私の住んでいるところは常磐学区で、開発も全然進まず、公共交通についてはまめバスは走っているが、利用者は全然ない。そのような状態であるにも関わらず免許証を返納するという逆境する社会事情になっている。高齢者の唯一の楽しみが町内の会館等になるのでその辺りのことを考えていただきたい。

#### 【委員】

人の健幸づくりとして全世代に共通した健康づくりとして書かれているが、資料には子どものことが書かれていない。先日熱中症で市内の小学生が倒れたというニュースをみた。子どもの健康が一番大事であると思うが、どのように考えているか。

#### 【委員長】

子どもの健康の関連も計画に入っていたと思うが、事務局の方から説明を。

### 【事務局】

全世代に共通した健康づくりとして、資料の関係上子どもの健康づくりについては記載していないが、妊娠期や幼年期である0～4歳の子どもに対しては、妊娠出産育児の支援のためのワンストップ窓口を設けたり、少年期である5～14歳には心の健康づくりとして、スクールソーシャルワーカーの配置を行ったりしている。また食の面では今後中学校給食を実施していこうと考えている。このように全世代のライフステージに応じた健康づくりを進めさせていただいている。

### 【委員長】

子どもも外で元気に遊べるような環境を整えていただきたいと思う。

### 【委員】

先日、草津のお土産を探した際になかなか見つからなかった。草津ブランドには愛彩菜やアオバナがあるが、生ものはお土産には不向きであるし、加工品で探したが見つからなかった。せっかく草津ブランドといういいものができているのでそれを利用した加工品などで、草津はこれだというのがほしい。

また、以前2階にあった食堂がなくなり、昨年度、自由に使えるスペースとなっていた時によく利用していた。お母さんと子どもが遊んだあと、お昼をそこで食べるのをよく見かけた。お母さん方もそこでコミュニケーションをとって楽しく過ごされていた。そこが今執務室になってなくなってしまっており、憩いの場がなくなりさみしい思いをしている。市庁舎1階にある市民サロンの喫煙室がなくなり、これから健康器具を置こうとされていて、それはいいことだと思うが、手続きをするためだけではなく、様々な世代の方が来られるような場所が市役所にあるといいなと思う。

### 【事務局】

草津ブランドについて、平成28年にブランド認定をしているのは野菜の6品目のみ。アオバナはアオバナ関連商品というものもある。草津に来て何をお土産にしたらいいのかという話は常々お聞きしており、実は今年、加工品・工芸品に拡大している。7月に事業者から草津ブランド認証の募集をしており、先日、第一次のブランド認証の会議をした矢先である。今月中には外向けにブランドとして新たな加工品・工芸品についても市民の皆様にもお知らせをしていく予定。農産品以外の加工品工芸品については新たに草津ブランドということで、ブランドのマークを商品に貼っていただき、販売促進を図る。

### 【委員長】

資料2に評価指標が書かれているが、「草津市が健幸なまちだと思う市民の割合の増加」



について、目標が60%なのに対し、現状は30%で昨年度と比べても低下しているが、低下の原因についてどのように捉えているか。

**【事務局】**

「草津市が健幸なまちだと思える市民の割合の増加」について、様々な方向から分析は行なったが、これまでと比べ、回答いただく年齢層や性別地域等も大きくは変わらず、原因は見つからなかったというのが現状。先ほども申し上げたが、健幸都市を進めているという地道な啓発や、健幸都市基本計画に載っている基本施策を着実に実行し、この数字を少しでも上げていけるよう、今年度も引き続き取り組みたい。

2) 健幸都市づくりの推進に向けた意見交換

**【事務局】**

<資料3に基づき、説明>

**【委員長】**

今回データを分析したのは初めてだということだが、健診データは国保加入者の特定健診の検査結果なので、例えばサラリーマンやその被扶養者が入っていないので、限界はあるが、結構学区間の差はあると感じる。草津市でのまちづくり、健幸づくりに対して様々なアイデアや意見交換をお願いしたい。

**【委員】**

地域差があるということに対し、たまたまそういう人が集まっただけなのか、あるいは背景になるものがあってこういう結果になったのか、そういった分析はできるのか。

**【委員長】**

私も専門家なので分析しだすといろいろ言えるかもしれないが、市の方でどう捉えているか。

**【事務局】**

確かにこうやって学区ごとに並べてみると地域差はあるが、これが果たして本当に地域ごとに生活習慣に特徴があるのか、例えば運動しやすい環境が整っているなどの環境が背景にあるのか、具体的にどの地域がどうなのかというところは、もう少し地域の中に入って見て、このデータを地域の方と共有しながら、声も聞きながら進めていきたい。

**【委員長】**

まずはどのくらい高齢化しているかということ、平均年齢の高い低いに注目する必要がある。国保のデータについては、受診者の平均年齢を見たほうがいいと思うが、地域ごとに違いがあるのか。平均年齢が高いと受診率が高くなり、若い人が多いと低くなるのが普通なので、年齢の影響を受けていると思う。

#### 【事務局】

各学区へは、今お見せしているデータ以上のデータも説明をしている。その中で、加入率は65～74歳で高くなっており、草津学区は70%、他の学区でも同程度。データとしては65～74歳の方のデータが多くなっていると認識している。また、本市における受診率は65～69歳が一番高く、男性は37%、女性は45.6%になっている。他の年代については、若い年代での受診率が低いというデータになっている。

#### 【委員長】

地域による年齢差がないと考えるとすれば、生活習慣の差が結果に出ている可能性はあるということ。

#### 【委員】

国保の特定健診受診率向上のための施策として、移動の健診車を回す計画はあるのか。私の住んでいる常盤は、高齢化率がほぼ30%で、なかなか医者もいないし、そういう受けにくい環境にあるので、健診車を回していただければ受診率も上がるのではないかと思う。

#### 【事務局】

移動車による健診の検討はないが、従来、個別の医療機関に行っていただき、国保の被保険者の方に受診に行っていたところ。受診率向上のために他の会社の健康保険組合と連携し、集団検診を実施している。例えばエストピアホテルや商業施設等で実施しており、国保の被保険者だけではなく、隣近所の方とお誘いあわせいただき、保険者が違っても一緒に行けるように拡大している。

#### 【委員長】

基本は車がないと遠い人が多い。あとは近くの開業医で受けてくださいということ。昔のように近くの公民館で健診をしているということはない。受けやすくする工夫は必要。特定健診の受診率の対策は各市町村苦労されており、集団検診を復活させるところやコンビニの敷地でやるところもある。もちろんかかりつけ医でやることも大切。

#### 【副委員長】

運動や健康増進に関し、健診の受診もひとつだが、介護予防の観点で考えたときに、運動する場所の有無が運動の実施率に直結するという明確なデータが出ており、市民センターや公民館等の集まって運動をする場所が近くにあることが重要。私の住んでいる老上学区はまちづくりセンターが地域の方が利用しやすい場所にあるため、空き時間があまりないくらい活発に活動されているという話を聞く。その一方で地域サロンに関して、これから場所を維持していくという観点で、お金のかかることなのですぐ建て替えというのは難しいと思うが、介護予防は1次予防、これからは0次予防ということもでてきているが、そういったところに市が重点を置くのであれば、集まれる場所というのは重要だと個人的には思う。そういった場所さえあればソフトに関しては、いろいろ運動やイベントは提供できるものはされているので、十分であると思う。

子どもの運動に関してはスポーツ推進計画で取組をされていて、例えば親子で一緒に運動するという機会を提供するというものは、この計画の中には入っている。健幸フェア等様々なイベントがある中で、例えば毎年開催されているサイクルフェスタで子どもが自転車に乗るなどの様々な体験ができる催しを市でやるのが重要。特に働き盛りの40～50代で、比較的子どもも小さい方であれば、このようなイベントに参加することで、親子で運動する機会を持つことや、子ども自身が体験しおもしろいなと思ってもらうことが大切。立命館大学でも小学生対象にスポーツの体験イベントを毎年実施している。そういった現状できることはイベントで体験してもらい、参加を増やしていく。そしてやはりハコは必要で、計画的に場所を確保しながら活動していくことが重要だと思う。

#### 【委員長】

今回は健診データを集計されていて、特定健診には生活習慣を聞く質問も入っており、生活習慣の地域差のようなものもそれなりに出せるかと思うので、そちらも検討すると思う。ただし国保の加入者のデータのみなので、地域全体のものとはずれている可能性がある。そこは注意してみないといけない。

#### 【委員】

地域の健康データについて、「地域の特性に応じた健康づくり」の「特性」という言葉が気になる。分析結果が地域の「特性」なのか、14学区の環境や地域の特徴が「特性」なのか、どちらなのか。計画の基本方針に沿って取組を進めるだけでなく、データを基に、必要なものを必要なところに整備していく、それがまちの健幸づくりにつながっていくという逆転の考え方も必要なのではないかと思う。

#### 【事務局】

「特性」という言葉の使い方については、単純にこういう健康データが地域ごとの特性として出てきたという意味で使わせていただいた。ただ、あくまで国保のデータであり、

地域によって交通の便や運動する場所の有無などの環境的な特性というものもあるので、これは地域の中に入って説明をするにあたり、そういったことも頭に入れたうえで丁寧な説明をしていきたい。

**【委員】**

私の住んでいるところは新興住宅地で、新興住宅地を建てる時に必ず公園の隣に公民館用地を作りましょうというのを市から言われているようで、用地はあるが、10年以上空き地のままになっており建てられていない。今は40～50代ばかりの地域なので必要性もなく、誰も何も言わないが、自分たちも年齢を重ねていくと地域で集まる場所も必要なのかなという気もしていて、この先が不安。今は老朽化しているところが重視されるのかとも思ったが、それも補助金はでなさそうな雰囲気だった。その割にはとてつもなく費用がかかりそうな市民総合交流センターの整備は進んでいる。実際この交流センターの内容は何なのか。市民が行く機会はあるのか。

**【事務局】**

市民総合交流センターについては、南草津の西友2階にある子育て支援拠点「ミナクサ☆ひろば」と同規模の子育て支援のスペースを整備予定。他にも人権センターや男女共同参画センター、草津駅の西口のまちづくりセンター、社会福祉協議会、民間の施設が入る。目玉としては子どもの施設になる。

**【委員長】**

地域ごとの公民館なども重要なものになるかと思うので、そのあたり予算配分をうまくできないかということだったが、公民館については計画に入っていなかったか。

**【事務局】**

計画には入っていない。健康福祉部としては様々な世代が地域で、近い場所で集まれるような拠点は必要だと思っており、今後健幸都市基本計画の中間見直しについても検討させていただくので、その際には皆さんのご意見をいただければと考えている。

**【委員長】**

本委員は計画の進捗管理をしっかり行っていただくことと、様々なご意見をいただくことで今後も進めていければと思う。本日の議題は以上である。議事録の中身については事務局でとりまとめをしたうえで、私の方で中身の確認をする。ご一任いただいでよろしいか。

**【事務局】**

本日の議事録の内容については委員長にご確認いただき、ホームページ上で公開させていただきます。次回の日程については2月から3月頃の開催を予定している。通知にて日程の確認をさせていただきます。

#### 4. 閉会

---